

学校名

千葉市立緑町中学校

執筆者名

今村 路

研究タイトル	令和型「歴史探究」プロジェクト ～“過去”から“未来”を見通す「歴史的な見方・考え方」の育成～		
① 育てるべき資質や能力・・・自分で設定した将来を担う子どもたちを育てるべき資質や能力について、その必要性を踏まえて記述する。	ページ No	1	
主に育成すべき資質/能力のキーワード	歴史的な見方・考え方、多面的・多角的に思考する力、歴史観		

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」とは、かつてのドイツの宰相ビスマルクの言葉だ。私自身、「歴史」とは、今を、そして“未来”を見通すための望遠鏡であると捉えている。そこで、私は子どもたちに「**変化の多い現代を捉え、未来を見通すための歴史的な見方・考え方**」を育みたいと考えている。

理由①：「歴史」学習とは、「現代」を学ぶということ。

歴史を苦手を感じる生徒のほとんどは、たくさんの人名や事件を覚えなくてはいけないことや、はるか昔に起きた事象を学ぶことへの無味乾燥さなどに嫌気がさし、敬遠してしまう場合が多い。しかし、本来歴史は、常に私たちの生活の「身近」な存在である。「今」を出発点とする問いを見出し、思考を深めていくことにこそ、歴史教育の本質があると私は考えている。

例えば、新型コロナウイルスによって、日本社会は大きな変容を強いられることとなったが、このような感染症と人類の戦いは、今に始まったことなのだろうか。人類の歴史を振り返ると、戦争による死者数よりも感染症による死者数の方が圧倒的に多い。人類の歴史は、感染症の克服という課題と常に隣合わせだったのだ。人類はこれまでどのように感染症と向き合ってきたのか。感染症は人類にどのような影響を与えてきたのか。**感染症と人類の「歴史」は、コロナウイルスに苦しむ「現代」を生きるためのヒントになるはずだ。**歴史は、私たちの生活に身近である。なぜなら、現代は過去の連続からできているからだ。歴史を学ぶことは、つまるところ現代を学ぶことにつながっている。

理由②：「歴史観」が、まだ見ぬ「未来」を生きるコンパスになる。

近年、日本人に大きな衝撃を与えた世界情勢の一つに、ロシアのウクライナ侵攻がある。しかし、これは果たして予想できないことだったのだろうか。なぜロシアはウクライナに侵攻したのか。日本へどのような影響を与えるのか。考えるヒントは歴史にこそある。プーチン氏の歴史観では、ウクライナはかつて、現在のロシアを中心とするソ連の構成国であったとされている。そのためウクライナ侵攻は、NATO 拡大に対する正当な防衛と主張されているのだ。事実はおき、歴史はときに利用され、戦争や争いの起因になり得ることを私たちは目にした。その他、現代日本の抱える諸問題も、すべからく歴史に起因する。中国や韓国との領土をめぐる問題や、「失われた 20 年」と称される日本の経済不況の裏で、かつて世界や日本で何があったのか。絶え間なく変化し不安渦巻く現代社会の中で、私たち日本人は今後どのような政治家を選び、どのように立ち振る舞っていけば良いのか。人々の「歴史観」が、それぞれの行動と、今後の日本の「未来」を形成していく。だからこそ、**歴史的な事実を多面的・多角的に捉え思考していく「歴史的な見方・考え方」**が、日本の未来を担う子どもたちにとって重要な資質なのだ。

歴史学習のゴールは「過去を知る」ことではない。「**過去と現代をつなぎ、未来を考える**」ことである。変化と不安の激しい今を生き抜く、令和の時代にこそふさわしい歴史教育の在り方に迫りたい。

② **子どもたちの現状**・・・子どもたちの置かれている環境や状況、学習レベルなどを客観的に把握することによって収集した情報に基づき、子どもたちの現状について記述する。

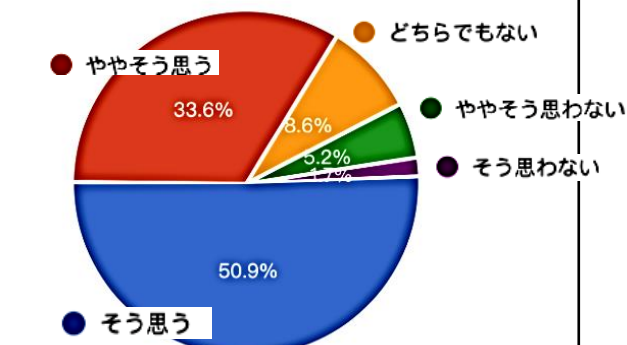
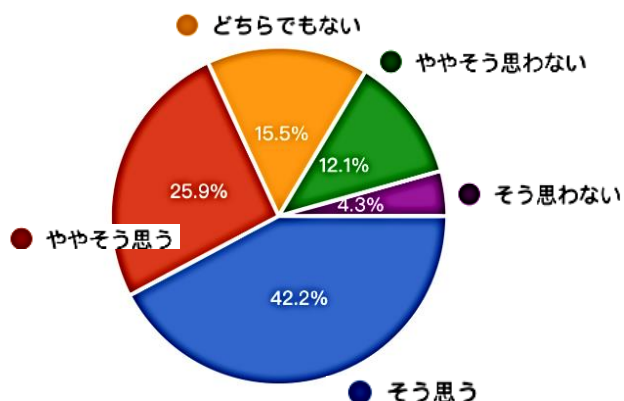
ページ No

2

● アンケート結果から見る子どもたちの現状（令和4年4月～7月）

本実践は、令和4年度に本校に入学した一年生131名を対象に、今年度を含む卒業までの3年度計画で実施する。以下のアンケート①～③の結果は、令和4年7月に実施したものである。

アンケート① 歴史の学習は役に立つと思いますか？ アンケート② 授業の前後で、社会科の興味や学ぶ意識が高まったことはありましたか？



4月の入学間もなくに同学年生徒に行った事前調査では、歴史の学習に対する肯定的な意識を持つ生徒の割合がおよそ43%と、決して高くはなかった。歴史学習や社会科学学習に対して苦手意識を持つ生徒は多く、その理由に「人名や年号を覚えるのが難しい」「学習にあまり意味を見出せない」などの意見が挙げられた。しかし、7月に行ったアンケート①からは、肯定的な意識を持つ生徒がおよそ68%と、大きく上昇したことが分かった。肯定的意識の向上の理由として、「授業の最初に行うクイズが面白い」や「テレビやタブレットを用いた視覚資料がわかりやすい」などといった意見が個別のアンケートから見られた。「今」を出発点とする問いから授業を展開することで、歴史を学ぶことの意義や、歴史に対する興味・関心を高めることに一定の成果を得ることができたと考えられる。

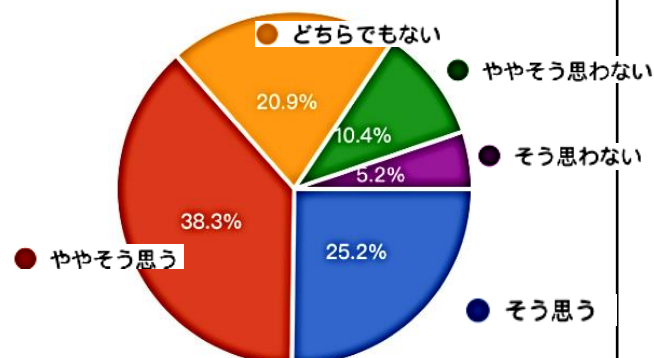
一方で、課題点も見られる。アンケート①や②で、歴史学習に対する肯定的な意識を持つ生徒が過半数を超えたにも関わらず、アンケート③の結果では、歴史に対して苦手意識を抱える生徒はおよそ63%と、こちらも過半数を超えている。また、第1回定期テストの分析から、歴史的な思考力・判断力・表現力を問う出題の正答率は56%と、他の観点より低い傾向にあった。

以上のことから今後は、

- (1) 歴史的な思考力・判断力・表現力の育成
- (2) 学習者が歴史学習に対して抱える苦手意識のより細かな分析

といった大きく二点の課題に留意しながら実践を深めていきたい。

アンケート③ 歴史の学習は難しいですか？



③ 教育支援の方針・・・収集した現在の情報に加え、過去の実践経験や知見（失敗）なども踏まえ、教育支援の方針を記述する

ページ No

3

●新学習指導要領に基づく「歴史的な見方・考え方」育成について

以下の図1は、歴史学習で深めていく「社会認識」と「歴史的な見方・考え方」の発達段階を表したものである。

図1（明治図書『中学校新学習指導要領 社会の授業づくり』を参考に筆者が作成）

社会認識の第一段階	社会認識の第二段階	社会認識の第三段階
事実（現象）の把握	理由・因果関係等の考察	理論・概念・価値観等の形成
『歴史的な見方』から、 「いつ」「誰が」「どこで」 「何を」などの歴史的事実を求 める。	『歴史的な考え方』から、 「なぜ」そのようなことが起き たのかなど、歴史的背景を考察 する。	『歴史的な考え方』から、 私たちは「どのように」すれば よいのか、現代との結びつきや 新たな価値や意思を形成する。

以上のように、社会認識を歴史的な見方・考え方をを用いて課題の発見・追究・解決に努めていくことで、新たな価値や意思を形成する探究学習の実現につながると考える。

●過去の実践の成果と課題

まずは、これまでの授業実践（一部）の成果と課題を具体的に振り返ることで、今後の実践でどのような点に留意し取り組んでいくべきかを明らかにしたい。

成果としては、大きく以下の二点が挙げられる。

- （１）「資料」「発問の工夫」による学習者の学習意欲や興味・関心の向上
- （２）「振り返り活動」による歴史的な社会認識の第二段階（図1）の形成促進

これまでの実践では、授業の導入でクイズや動画資料等を用いることで、「「今」を出発点とする問いから学習者の興味・関心と主体性を高める工夫」と、日々の授業の終末部において、「学習内容の理解とメタ認知を高める振り返り活動」といった取組を行ってきた。

例えば、1年生の「古代文明のおこりと発展」の学習では、授業の導入にカレンダーを用いた。今でこそ子どもたちにとって当たり前の「1年間は365日」や「1週間が7日間」といった概念は、実は今から4000年以上前の古代文明において導かれたことである。このような「今」を出発点とする問いは、子どもにとって身近で考えやすく、そこで得た疑問や驚きは更なる課題の追究につながる。「なぜ古代エジプトで暦が発展したのか」という「なぜ型」の学習課題で授業展開を行い、社会認識を深めることができた。

課題としては以下の二点だ。

- （１）授業の展開部が知識網羅型になり、学習展開が受動傾向になってしまったこと
- （２）振り返り活動が形式化し、単なる授業の感想や既習事項の繰り返しのよう記述が多く見られたことや、社会認識の第三段階（図1）への深化が不十分であったこと

このような課題を踏まえ、今年度、現担当学年において同授業を再構成して展開した。

学習者自身が、より主体的に思考し探究する授業展開の工夫の1つに、思考

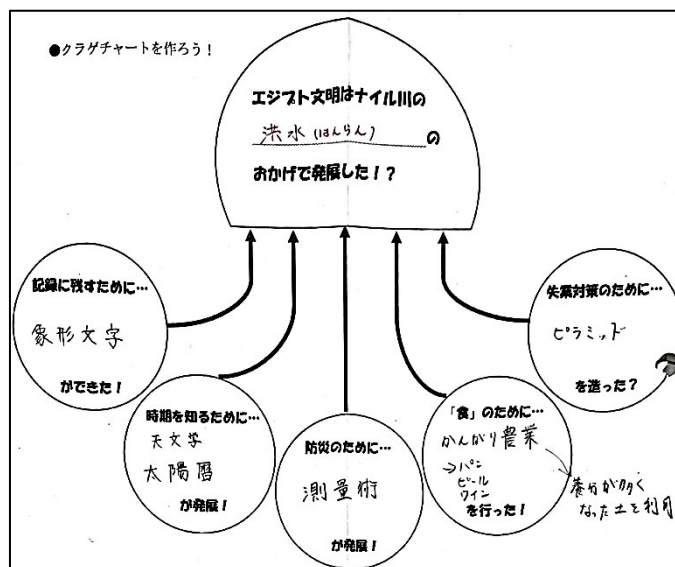
ページ No

4

ツールの活用がある。(図2)

図2 思考ツールの生徒の記述

思考ツールの良さは、学習者の思考を段階的に引き出し、理論性や関連性を高めていくことにある。使い方や発問・発表方法など、細かな点はまだまだ検討・研究の余地があるが、少なくとも知識網羅型の授業や、学習者が教師の話聞く一辺倒になる受け身の講義型授業からの脱却には一定の効果をえた。同授業以外にも、弥生時代における稲作伝来による変化をクラゲチャート、第二次世界大戦前のドイツにおけるヒトラー政権の拡大をフィッシュボーン図、現代社会を構成する要素にYチャートを用いるなど、様々な実践を行った。



また、振り返り活動においても改善を図った。これまで、毎回の授業後、振り返りシートにその授業で気づいたことや感じたことなどを記述させ、回収・評価をしていた。ところが、授業内容から新たな課題を見出したり、更なる考察を深められたりした生徒がいた一方で、テーマのない漠然とした振り返り活動から何を書けばよいのか見出せず、感想文(～が面白かった)や既習事項の繰り返し(〇〇について分かった)といった記述も多く見られた。より社会認識を深めるための工夫として、振り返り活動に時おりテーマや発問を入れることを試みた。(図3)テーマが与えられることで、子どもたちにとって思考をするための着眼点が明確になり、社会事象の類似や差異、因果関係といった多面的・多角的な思考の手助けができたと考えている。今後は、どのようなところでテーマを設けるのか、あるいはあえてフリーテーマにするのか、さらに研究・実践を深めていきたい。また、現時点では図1に示す社会認識の第3段階への深化はまだ不十分だと考えている。こちらについても、新たに手立てを講じていく。

図3 振り返り活動の生徒の記述

◎まとめ Q:「縄文時代」→「弥生時代」になり、社会はどのように変わったか?

稲作が日本列島に伝わり、そのため米をたくさん持つ者と持たない者ができ、米のうはい合いになり、戦いや争いも起こるようになった。

以上、これまでの実践の成果と課題、そこからの改善を含めた今後の実践における教育支援の方針をまとめると、以下ようになる。

本実践における教育支援の方針

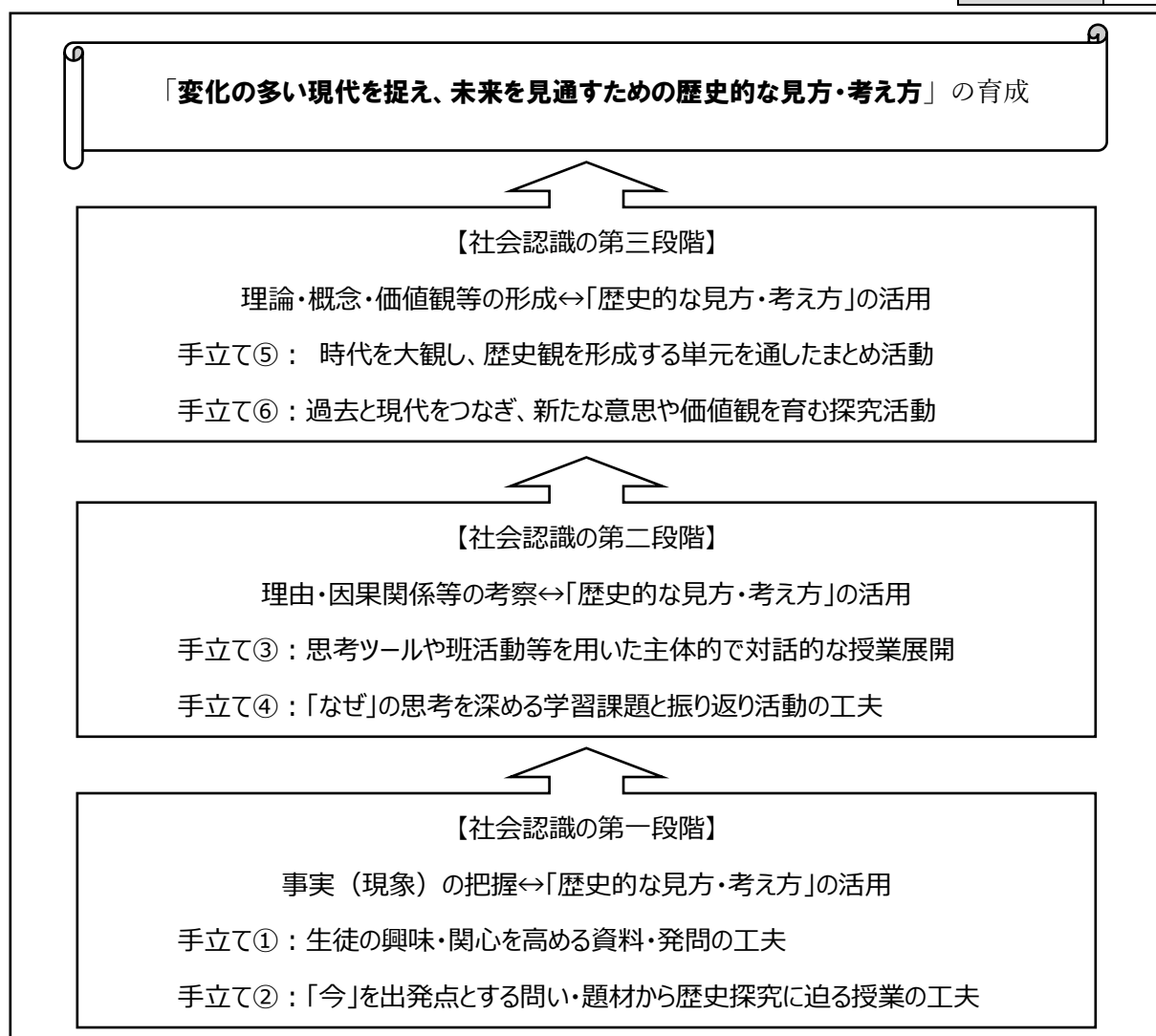
- (1) 課題に対して**主体的に思考・探究**するための授業展開・単元構成の工夫
- (2) 社会事象の**背景や因果関係に迫る「深い学び」**を目指した振り返り活動の工夫
- (3) 学習した事実や時代観から、**現代につながる新たな価値観や発見を見出す**取組の工夫

このような指針を踏まえ、令和型「歴史探究」プロジェクトを立案する。

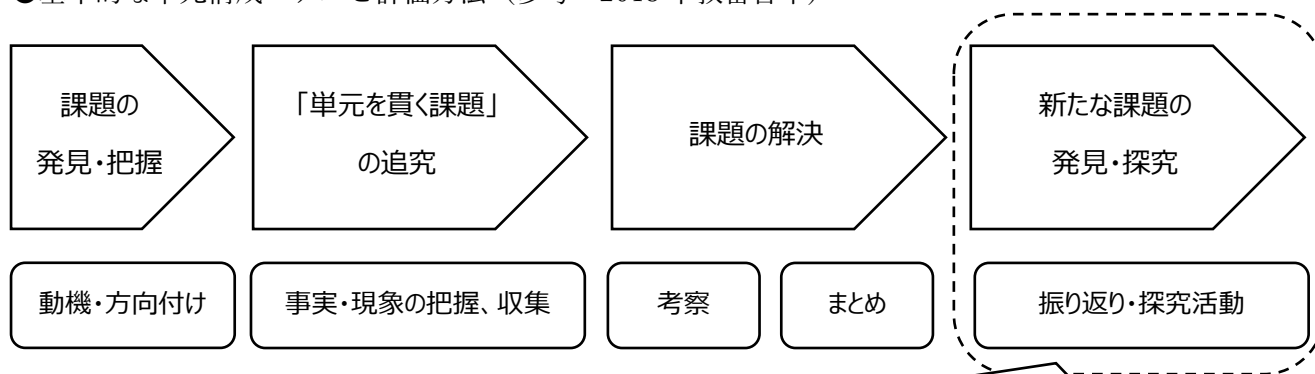
●令和型「歴史探究」プロジェクトの概要

ページ No

5



●基本的な単元構成モデルと評価方法（参考：2018 中教審答申）



「変化の多い現代を捉え、未来を見通すための歴史的な見方・考え方」の評価材料

- ・単元を振り返り、時代を大観する思考ツール【ワークシート】
- ・歴史的な背景・時代的特色を踏まえた考察【ワークシート・発表】
- ・現代へつながる課題意識やさらなる探究心【ワークシート・発表】 など。

④ 授業計画と準備状況…教育支援の方針をもとに、「自分がいつ、何をどのように行うのか」具体的な実践や行動に落とし込み、来年度以降の授業計画と準備状況を明確に記述する。	ページ No	6
具体的な工夫のキーワード	「今」を出発点とする問い 歴史観と価値観を形成するまとめ・探究活動	

先に示した令和型「歴史探究」プロジェクトに即した実際の授業の単元計画を、R4～R6年度からそれぞれ1つずつ紹介する。

●単元名「日本誕生 ～「国家」とは何か?～」

内容：奈良時代から平安時代の政治・経済・文化等

実施時期：1年生（R4.10月頃～）

	学習内容	指導の工夫とプロジェクトとの関連
課題の把握	①「ミチ」との遭遇? 学習課題：なぜ奈良時代の道は広いのか? ・平城京をもとに、律令制度や古代国家について調べる。 ・奈良時代の道の特徴を考察する。 単元を貫く課題：古代日本における「国家」とは何だろう?	・「道」に関するテーマから奈良時代の資料につなげていく。【一手立て②】
	②奈良時代の衣・食・住! 学習課題：奈良時代の人々の衣・食・住について調べよう! ・奈良時代の人々の暮らしについて、税や土地制度の変化と関連付けて調べ、考察する。 ・「自分にとって一番負担が重い税は何か」ランキングを考え、発表する。	・「貴族」と「民衆」の衣食住を比較する資料の提示・発問から学習意欲の向上を図る。【一手立て①】 ・「税」のランキング活動から、学習の主体性と対話性を高める。【一手立て③】
	③宝物がいっぱい!天平文化 学習課題：奈良時代の文化を漢字1字で表そう! ・奈良時代の文化資料をグルーピングし、漢字1字でネーミングする活動を通して、国際色豊かな文化が栄えたことを理解する。 ・天平文化について、遣唐使や時代的背景を踏まえて考察する。	・グルーピングとネーミングを取り入れた活動から対話性を高める。【一手立て③】 ・天平文化が栄えた背景を考察する振り返り活動。【一手立て④】
	④「引っ越し」から考える平安京! 学習課題：なぜ平安京に都を移したのだろう?	

単元を貫く課題の追究

		ページ No	7
	・平城京と平安京の模式図を比較する活動から、平安時代の政治や仏教の広まりといった「時代的特色」に迫る。	・具体的な「比較」活動から「歴史観」の形成を図る。【一手立て⑤】	
課題の追究	⑤サザエさんの家系図で読み解く摂関政治	学習課題：なぜ「波平」ポジションが権力を持ったの？	
	・摂関政治の特色やねらい、土地制度などについて、これまでの政治との変化について考察し、表現する。	・「サザエさんの家系図」から実際の摂関政治や家系図資料に迫り、主体的な思考を促す。【一手立て①】	
	⑥「美人」からみる平安の文化！	学習課題：なぜ小野小町は「美人」なの？～平安時代の文化～	
	・平安時代の美人について、文化的な特色や背景に着目して考察する。 ・クイズを通して仮名文字や文学作品の成立について理解する。 ・平安時代の文化の特徴を、時代背景を踏まえて考察し表現する。	・現代の美人と平安時代の美人を比較し、平安時代における美人の3条件について考える。【一手立て②】 ・天平文化との比較から国風文化の時代的特色に迫る。【一手立て⑤】	
課題の探究	⑦「国家」とは何か？～まとめ・探究～	学習課題：古代日本の《キーパーソン》はだれだろう？	
	・古代までの日本を大観し、クラゲチャートを用いて、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・古代の日本ではどのように国家が形成されたか、また、どの人物がキーパーソンかを考え、発表する。	・思考ツールを用いて対話につなげることで、様々な角度から思考させる。【一手立て③】 ・古代における国家の現代への影響を考えさせることで新たな価値観の形成を図る。【一手立て⑥】	

●単元名「文明開化～なぜ日本は《近代化》できたのか？～」

内容：明治時代の政治・経済・文化等

実施時期：2年生（R 5.1 月頃～）

	学習内容	指導の工夫とプロジェクトとの関連
	①明治の名字？	
	学習課題：なぜ「名字」は明治時代に義務付けられたの？	
	・新政府が成立し、名字をはじめ近代国家の基礎が整備されていったことを理解する。	・「名字クイズ」を行い、明治維新やその背景への関心を高める。【一手立て②】

課題の把握	明治維新によって、幕藩体制や身分制度がどのように変化したか、廃藩置県目的等を考察し、表現する。	ページ No 8 廃藩置県において、「なぜ県名と県庁所在地名が違うのか」に着目して資料の読み取りや考察を行い、明治維新の現代への影響を感じさせる。【一手立て①】 単元を貫く課題：なぜ日本は《近代化》できたのか？
単元を貫く課題の追究	②みんなでチャレンジ！三大改革ランキング！ 学習課題：なぜ制服と軍服は似ているの？～明治「三大改革」のわらい～ - 新政府が行った学制・兵制・税制の改革の内容について調べてまとめる。 - 三大改革のそれぞれの影響について、江戸時代の制度と比較しながら考察し、制度に対して賛成か反対か自分の意見を述べる。	- 自分たちの「制服」から学習課題へつなぐことで、生徒の探究心を高める。【一手立て②】 - 三大改革に対する自分の意見や、「どれが最も重要な改革だったか」をランキング評価することで、生徒の思考力と主体性を高める。【一手立て④】
	③「運動会」から考える富国強兵！ 学習課題：なぜ新政府は「富国強兵」を進めたの？ - 現代と明治時代の運動会の比較から、新政府が進めた富国強兵の影響を読み取る。 - 錦絵の資料から文明開化の様子を捉え、明治維新による日本の変化を「Xチャート」に分類し、表現する。	- 明治時代の「運動会の種目名」から、明治の時代観を掴む。【一手立て②】 - 明治維新の影響をXチャートに表現することで、江戸～明治時代の変化を大観させる。【一手立て③】
	④「地政学」の視点でみる諸外国のわらい 学習課題：「北海道」と「沖縄」はなぜ生まれた？ - 北海道と沖縄県が設置された理由を、地理的な視点や歴史的な背景から考察する。 - 竹島、北方領土、尖閣諸島の領有の歴史的な経緯と日本政府の見解を理解する。	現代の日本の国際関係につながる様々な歴史的背景を考えることで、現代とのつながりや価値観の形成を図る。【一手立て⑥】
	⑤「演歌」から考える自由民権運動！ 学習課題：なぜ「演歌」が流行したの？ 自由民権運動のおこりや政党の結成、激化事件に至る過程を、タブレット等を用いて調べ、民権派と政府側のそれぞれの立場についてまとめる。	- 当時の「演歌」を聞き、学習内容への興味関心を高める。【一手立て①】 - 演歌が流行した理由を時代背景に着目して考えさせる。【一手立て④】

	⑥「君が代」から考える立憲制国家！		ページ No	9
	学習課題：君が代の「君」とはだれのこと？ ～立憲制国家の成立～ ・大日本帝国憲法の制定過程とその内容の特色を調べ、議会政治が始まったことの歴史的意義や、その特色と現代とのつながりを考察し、表現する。 ・君が代を実際に聴くことで、制定の背景や「国家」の意義について探究する姿勢を育む。【一手立て②】			
課題の探究	⑦なぜ日本は《近代化》できたの？まとめ・探究			
	学習課題：日本の《近代化ウェビングマップ》を作ろう！ ・日本がなぜ他のアジア諸国に先がけて近代化することができたのか、日本と世界を様々な視点から考察する。 ・明治維新が現代にもたらした影響を考察する。 ・日本の近代化を、日本と世界の様々な出来事から成る「ウェビングマップ」を作成し、明治時代を大観する。【一手立て⑤】 ・明治維新と現代日本をつなぐに気付かせる。【一手立て⑥】			

●単元名「戦後日本と冷戦 ～今の日本を形作ったものは…？～」

内容：冷戦下における日本の政治・経済・文化と国際情勢

実施時期：3年生（R 6.7月頃～）

	学習内容	指導の工夫とプロジェクトとの関連
課題の把握	①「特別教室」からみる戦後史 学習課題：なぜ「図書室」は最後にできた？ ～戦後改革史～ ・終戦後の日本において、日本国民の状況や、GHQ による非軍事化などの占領政策について調べる。 ・闇市やマッカーサーと昭和天皇の資料などから敗戦後の日本の状況を読み取る。 ・音楽室、図書室、被服室、理科室などの特別教室が作られた順番を並び替える活動を通して、世界大戦までの時代観を掴み、GHQ の戦後改革につなげていく。 【一手立て②・⑤】	
	単元を貫く課題：今の日本を形作ったものは何だろう？	
	②勝ち組5レンジャー！国際連合！ 学習課題：なぜ国際連合ができたのに《冷戦》が始まったの？ ・資本主義と共産主義が対立する中で冷戦が発生し、国家の分裂や植民地支配の終結など、新たな国際体制が生まれたことを理解する。 ・冷戦下における各国の動静を調べる。 ・なぜ冷戦が始まったのか、なぜ国際連合が発足してもなお国家間の争いが続いたのか、資料や時代背景を踏まえた振り返り活動を行わせる。【一手立て④】	

単 元 を 貫 く 課 題 の 追 究	③地政学でみる日本の独立と55年体制	ページ No 10
	学習課題：なぜ自衛隊は設置されたの？	
	- 日本がどのような背景で国際社会に復帰したかを考察する。 - 冷戦が激しくなる中、資本主義陣営の強化を目指したアメリカが日本の独立を認めたことを理解する。	- 日本近辺の共産主義陣営、資本主義陣営を地図で着色し、地政学的な視点からアメリカのねらいを考えさせる。【一手立て①】 - 現在も存在する自衛隊から学習課題に迫る。【一手立て②】
	④緊張緩和とパンダ外交	
	学習課題：なぜ日本にパンダがやって来たの？	
課 題 の 探 究	⑤「カップヌードル」から考える冷戦終結！	
	学習課題：「No Border」とは何か？ ～冷戦終結と新たな時代の幕開け～	
	どのように冷戦が終結したのか、また冷戦終結後どのように国際情勢が変化したのかを考察する。	カップヌードル「No Border」のCMのメッセージから、ベルリンの壁崩壊などの冷戦終結後の世界への興味関心を高める。【一手立て①】
	⑥「お菓子」で大観！現代史！	
	学習課題：なぜハッピーターンが生まれたの？	
課 題 の 探 究	⑦現代日本ダイヤモンドランキング まとめ・探究	
	学習課題：現代の日本を形作ったものは何だろう？	
課 題 の 探 究	- 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察する。 - 戦後の日本の発展について、世界の情勢や国際社会における日本の位置付けと関連付けて考察し、表現する。	現代の単元で学習した政治・外交・文化・経済など様々な出来事を振り返り、「最も現代日本へ影響を与えたものは何か」を「ダイヤモンドランキング」の作成を通して考えさせる。【一手立て③・⑤】

この度、初めて実践計画を作成することで、私自身貴重な研修の機会となった。今後も積極的に研究に励んでいきたい。